

歴史を学ぶ講座

# 新・八幡の歴史 10回目

宇佐八幡宮から勧請、石清水八幡宮に遷座が859年。石清水八幡宮は神仏習合の出発点と言われ、全国に受け入れられ、広がって行き、神宮寺…神社でもあり寺でもある…と呼ばれた。石清水八幡宮には多い時で坊が48もあり、1000年余り後の明治の廃仏毀釈によって、寺院や仏像が壊されるまでその形態が続いた。

前回、出口さんは、それ以前の八幡神のお話を詳しく話して下さいました。奈良時代、大仏鑄造や工事の無事を八幡神に。これは宇佐の土着系の神と新羅から渡来した銅山神・鍛冶神が結合したものであるとのこと。藤原氏の権力野望から地方(宇佐)から中心(京都)へ、八幡神を利用した。外国との関係が深く、神と仏の合体の芽生えが当初から見られた。日本の神々は仏(本地)が衆生を救うために、権に現れた(権現・垂迹)姿であるという、本地垂迹説に至る。他にも何故、祭神が応神天皇なのかとか、航海安全の神の八幡宮摂末社の三女神社のことも。にわかでは書けません。

- ① 日時 2019年2月15日(金) 13時30分～
- ② 講師 出口修さん
- ③ 参加費 100円

新・八幡の歴10回目です。新しくスタートしています。前のお話と違う部分も話されるそうです。



八幡まるごと館 / 八幡市男山松里12-20

(TEL&FAX) 075-983-3664

(E-MAIL) [yawata@marugotokan.net](mailto:yawata@marugotokan.net)

ホームページは <http://marugotokan.net/>

又は、八幡まるごと館で検索して下さい



八幡まるごと館は街行く人のだれもが自由に立ち寄れる“地域サロン”です。休館日は毎週火曜日全日と土・日午後です。